

第6期宮前区区民会議 第3回（仮称）地域福祉部会  
【摘録】

日時：平成28年10月24日（月）18:00～20:00

会場：宮前区役所4階 第1会議室

【進行 中里部会長】

出席委員（敬称略）：青柳、老門（聰）、大久保、小田、葛西、川田、砂川、滝本、  
椿、中里、中村（11名）

欠席委員：0名

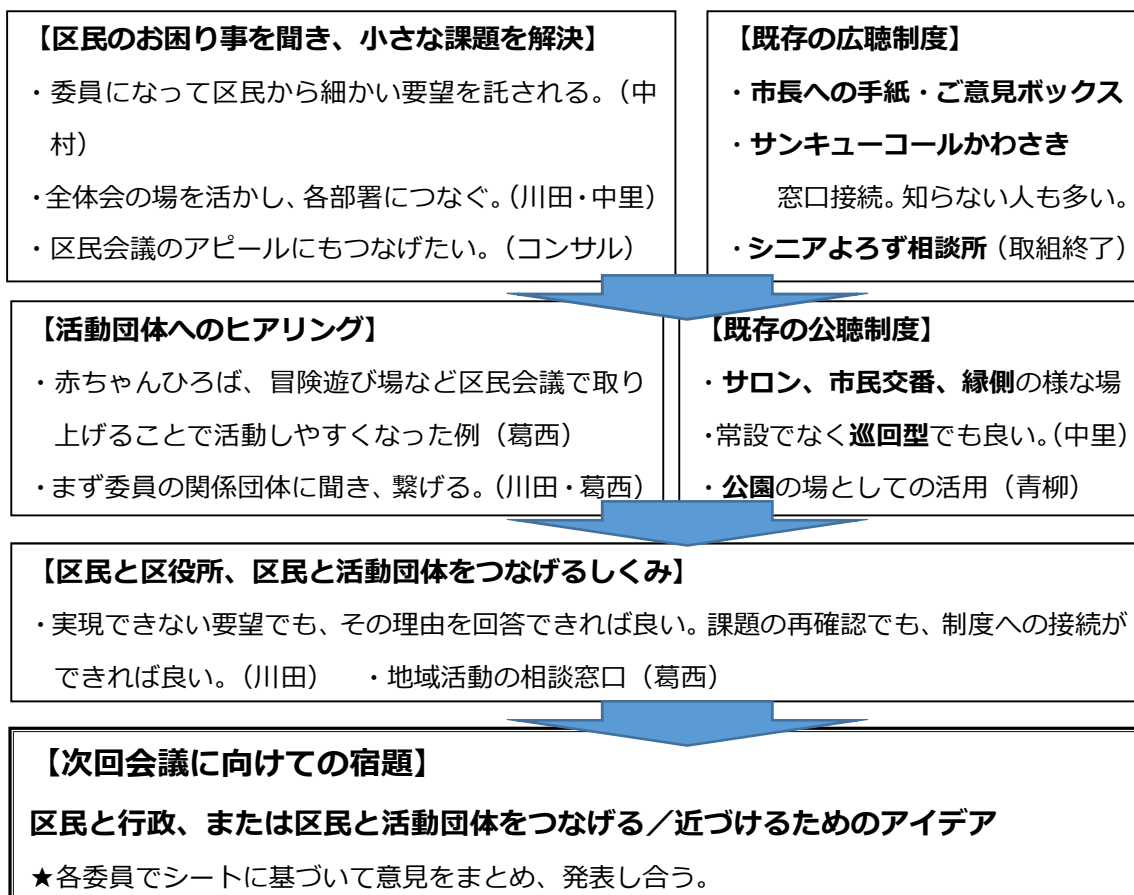
傍聴人：0名

議題：

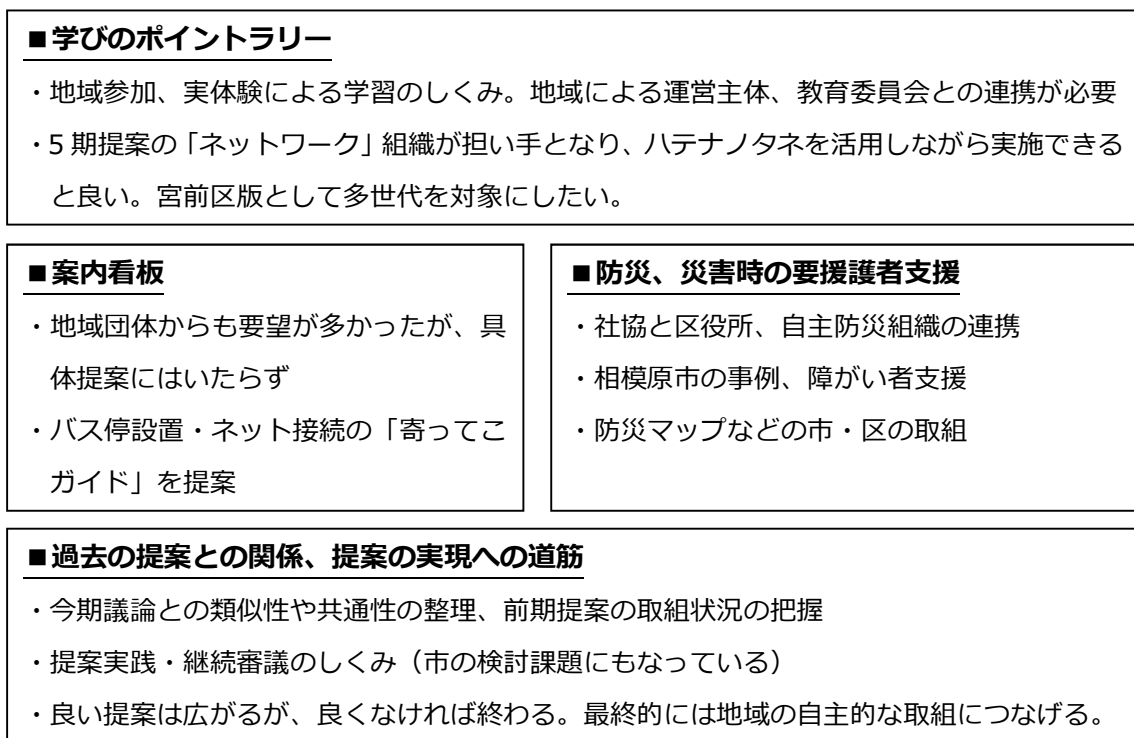
1. 専門部会の審議テーマについて（公開）  
意見交換  
詳細は次ページ以降参照
2. その他（公開）  
宿題の提出について  
今後の進め方…部会日程案等の確認

## 第3回（仮称）地域福祉部会 意見整理

### 1) 地域課題、区民のお困り事を吸い上げるしくみ



### 2) その他の話題



## 1) 地域課題を吸い上げるしくみについて

### ■ 区民のお困り事を聞き、小さな課題を解決していく方向性

- ・ 小さな課題をたくさん出して、全体会で関係部署と協議し、解決できるものからしていくやり方もあるのではないか。(中里部会長・川田委員)
- ・ 区民会議の全体会には各部署から参加があることも活かしたい。砂川委員から指摘のあった地域の危険な階段について、道路公園センターが前向きに場所の確認等をすぐにされたのは良かった。(川田委員)
- ・ 区民会議だよりも顔写真が掲載されたことで、いろいろな人に声をかけられたり、細かい要望を訴えられたりすることが増えた。(中村委員) ※以下はその例
  - ・ プレママでトイレの鍵を下だけでなく、上にもつけてもらいたい。子どもに開けられてしまう。
  - ・ 区民祭のポスターが大きすぎ、他の広報を貼れなくなる。
  - ・ 図書館や市民館に行きづらいのでコミュニティバスを(若い母親の意見)
  - ・ 公園に大人用だけでなく、幼児用のブランコを設置して欲しい。
  - ・ 馬絹の地区会館が新しくなったが、水害の多い地域でその対策が不安
  - ・ まじわるで、多目的トイレで何かあった時に管理人が把握できない。  
→まじわるの話は総務課の案件になる。すぐに解決できる課題もあるかもしれないので、担当の方に確認したい。(事務局)
- ・ お話を伺える方がいる人は良いと思うが、困り事を誰にも言えない、繋がっていない人はどうするのが課題ではないか。(大久保委員)
- ・ 私のお店で、高校生から「彼女とのこと」などプライベートな悩みを相談されることもあった。精一杯答えていると、次に会った時に報告があったりする。役所関係の資料がお店に置いてあるのを見て、お客さんが私にいろいろ相談してくることが増えた。(砂川委員)
- ・ 区民の意見、お困り事を聞こうというのもテーマになりうる。1期からの課題で区民会議の知名度を上げたいというのもあるので、「区民会議が聞きます」というアピールとしてもできそうだ。(コンサル)

### ■ 現在の広聴機能等について

- ・ 広聴機能については、市長の手紙、区役所内のご意見ボックスなどがある。また「サンキューコールかわさき」もあり、1件1件対応させていただく形になっている。(事務局)
- ・ コールセンターを知らない人も多い。ちらしや回覧など既存の広報では響かない人がいる。「こういうしくみだ」と直接説明できる人が現場に行くことで見えてくるものもありそうだ。(川田委員・葛西委員)
- ・ サービスを必要としない世代もある。本当に手厚くすることが必要なところはどこかなども想定して考えてはどうか。(事務局)

- ・ コールセンターにどこまで相談してOKなのか分からない人も多そうだ。(椿委員)
- ・ 行政では対応できない相談も多い。活動団体の紹介については、行政が把握しているものであれば、所管課に繋ぐようにしているが、限界はある。(事務局)
- ・ お母さんたちはどこに聞いたり話したりしたら良いのかわからない。前はこども支援室という名称の部署で聞きやすかったが、名前が変わってしまった。(葛西委員)
- ・ シニアアドバイザーとして、以前あった「よろず相談所」で高齢者の様々な相談を受けたことがある。内容に応じて弁護士やシルバー人材センター、担当部署、社協などを紹介していた。銀行の場所やバスの時刻などを聞かれることもあったが、これらの情報は区役所のロビーに掲示されるようになり、「よろず相談所」の取組も終わった。(小田委員)

#### ■ 活動団体に困り事を聞く

- ・ 区民会議で取り上げられることによって、活動がやりやすくなった例がある。「赤ちゃんひろば」は、以前は子ども文化センターの施設利用で他団体と競合していたが、優先的に利用できるようになった。冒険遊び場もやりやすくなった。風の泉の掛け算九九の学習を地域で行う活動も、それまで苦労していた学校とのつながりづくりが少しやりやすくなったと聞いている。(葛西委員)
- ・ まず一般区民ではなく、福祉関係の活動団体から何か困っていることを聞いてつなげていく。困っていることを聞いて、所管につなげるだけでも、活動がやりやすくなったり、課題が解決したりすることがありそうだ。(葛西委員)
- ・ 区民会議は、活動団体の細かいニーズまでは把握していない。まず委員の関係団体から聞き取りをして可能なものがあったら、活動支援や地域福祉に繋げ、改善していったらどうか。(川田委員・葛西委員)
- ・ ウェルカムクラスで、感想欄に困っていることを書いてもらう欄を設けており、細かい要望まで一杯出てきていた。しかし、私たちではどうにもできない内容も多く、今年から記載をやめてしまった。(葛西委員)

#### ■ 区民と区役所や活動団体をつなげるしくみ、意見や困り事を吸い上げる場

- ・ 細かい悩みや課題を相談、気軽に話せるサロンがあれば良い。市民交番や縁側のような場があって、そこである程度答えが得られるか、繋がれていく。地域の方が集まる場所、井戸端ができると良いなというイメージがある。(中里部会長)
- ・ 常設でなく、巡回型のものでも良いのかもしれない。(川田委員・中里部会長)
- ・ 公園もそういう場になりうるのではないか。一次避難場所になっていることも多いので、その意味からも普段から公園に親しんでおいて欲しい。(青柳委員)
- ・ あまり区民から広く意見を求めても、收拾がつかず、返答ができない状況も出てしまうのではないか。(小田委員)
- ・ できないのであれば、なぜできないのか、返していく機能があれば良い。(川田委

員)

- ・ 役所にわざわざいかない方も多いので、こちらから地域に出ていくしくみが必要ではないか。(川田委員)
- ・ 区民と区役所をつなげるやり方。福祉に関することで活動団体の意見を吸い上げるしくみ。地域活動の相談窓口を考えたい。(葛西委員)
- ・ 既にある制度や取組と同じことをしてしまわないか心配だ。(椿委員) →課題が再確認できれば、既存の仕組みに繋がれば、成果と考えてよい。(川田委員)

## 2) その他の話題

### ■ 学びのポイントラリーについて

- ・ 東京大学・市川先生が、子ども達が地域参加で実体験による学習ができるしくみとして考案した。参加団体であれば、地元でなくてもポイントが得られる。例えば、文京区の児童が奈良のお寺のプログラムに参加しても良い。(葛西委員)
- ・ 地域における運営団体が必要であり、そこが地域の教育委員会と連携を取っている。学校、お寺、地域活動団体などによるプログラム展開例があり、運営団体が参加団体の募集などから行う必要がある。(葛西委員)
- ・ 法人になっている幼稚園や保育園なども参加できるのではないか。(青柳委員)
- ・ 前期の提案、ハテナノタネの試行版の掲載内容がそのまま活用できそうだ。その発展形になれば素晴らしい。(青柳委員・葛西委員)
- ・ 会員からの会費、企業からの賛助金や助成金等で運営されている。ただし、助成金は期限が設定されており、期限後の現在、どうなっているかはわからない。(葛西委員)
- ・ 区民会議が発展した団体として運営団体を組織できないか。または「情報ラボ」のように団体を立ち上げていく形だ。第5期の「ハテナノタネ」と併せて提案された、ハブ的な、各活動団体を集めた「ネットワーク組織」が実現されれば、そこが運営組織になれるのではないか。(葛西委員・青柳委員)
- ・ 子どもだけでなく、多世代をターゲットにできないか。既存の活動団体もたくさんある。(青柳委員・川田委員)
- ・ このポイントラリーに参加する形ではなく、これを原形に宮前区独自のものをつくれぬか。(中里部会長)
- ・ ハテナノタネを試行的に今年度の夏休み前に宮崎小学校の4・5年生に配布し、使っていた。その結果を現在取りまとめているところだ。(事務局)

### ■ 案内看板について

- ・ 第5期の検討内容で、史跡や資源の案内看板設置を希望する意見が、委員だけでなく、地域の活動団体に伺った意見の中からも多く出ていた。(小田委員・葛西委員)
- ・ まち歩きの際にその場所に看板があるかないかは大きい。その後どうなっています

かと活動団体に聞かれることがある。(青柳委員)

- ・ 実現可能な看板の設置方法も検討していた。障がい者施設に依頼して簡易な立札・高札型看板をつくってはどうかという意見もあった。(小田委員・青柳委員)
- ・ 宮前カルタをモチーフにした看板が2か所にあり、これを増やせないかという意見もあった。事務局がサンプルを制作していた。(葛西委員・中里部会長・川田委員・小田委員) →地域が自主的に数十万円かけて設置した物で、区として増設できる物ではなかった。事務局が制作したのは段ボールで作った縮小版のサンプルで、あくまでフォーラム内の企画で現場を紹介するためのものだった。(コンサル)
- ・ 看板は最終的な提案とはならず、検討内容として数行触れられたにとどまっていた。(川田委員)
- ・ 看板は建てる場所によって行政の所管が異なってくる。(事務局・青柳委員)

#### ■過去の提案との関係、提案の実現への道筋について

- ・ 5期の提案内容と類似性や共通性があるのであれば、整理整頓(現状の把握や評価)が必要だ。第1期から同じような提案が繰り返されていると感じる。(大久保委員)
- ・ 「ハテナノタネ」「寄ってこガイド」「立札看板」は、各活動団体が集まる「ネットワーク組織」が実現すれば、そこで検討していくべきものではないか。(葛西委員)
- ・ 5期については経験した委員から意見が出るが、4期以前については経験した委員がいないので意見が出て来ない。(中里部会長)
- ・ 5期の提案「ほっとやすらぎステーション」に関連して、宮前地区と向丘地区で3回のワークショップ講座を開催し、カフェなどの開設を呼び掛けるような取組が始まったが、地域では負担感を感じていたり、いろいろな考え方があることを感じた。地域で担い手が出て来ないと取組がなかなか広がらない。(川田委員)
- ・ 行政から言われてやるのではなく、「おもしろそうだね」と自発的な流れが出てくるのが理想だ。良い提案であれば広がっていくし、良くなければそのまま終わってしまうのではないか。先が続かない提案は、努力が足りなかったり、内容が受け入れられなかった面があったのだと思う。(中里部会長)
- ・ 任期終了後にも、想いを引き継ぐ団体ができ、審議や取組を継続することができれば、もっと実現への道が開けそうだ。その後押しや組織づくりができないか。今のままでは行政事業として採用されるか否かだけになっている。(青柳委員・川田委員)
- ・ 区民会議のあり方は市でも見直されているところであり、「提案後の実践部隊の確保や検証」はその中の話題の一つだ。提案内容も行政の事業の仕組みに合う者、合わないものがあり、実践につながらないこともある。市民の担い手や財源の確保も重要な課題。検証の仕組みは必要だと考えている。(事務局)
- ・ 例えばサロンであれば、行政は立上げを支援する仕組みはつくれるが、本当の地域

のサロンになるには、地域の方ができることを主体的に、困っている人と同じ立場の視点からやっていかなければならない。(川田委員)

- ・ 実践部隊については、提案時の委員と新たな公募などで、あらたな団体を立ち上げ、任命などできないか。(青柳委員)
- ・ 事業化予算がついたのかなどの情報は知りたいところだ。予算がつかなかったのであれば、提案は受け入れられなかったということで、もっと良い提案を考えなければならない。(葛西委員)
- ・ 他区の区民会議の状況やこれまでの結果なども見ながら、考えていきたい。(青柳委員)

#### ■ 防災、災害時の要援護者支援について

- ・ 相模原市から災害発生時の対策や、障がい者支援に関する資料を参考にいただきました。いつくるか分からない地震などの災害に備えたい。(砂川委員)
- ・ 11月の第1日曜日に「アリーノ」で障がい者と民生委員、地域の三者で、防災に関する話合いがあった。市や区で防災マップなどの資料もかなり作られているが、まだ一般区民に充分しられていない実態がある。(中村委員)
- ・ 社協でボランティアを集めているが、そこと区役所があまり繋がっていない。このままでは例えば災害時にどこにボランティアを派遣して良いのかわからない。こうしたことの指摘、改善提案はできそうだ。(葛西委員)
- ・ 社協の役員会や地域の自主防災組織など実際に活動されている方たちから要望していき、真剣に話し合っていくことが必要ではないか。(川田委員)